

人文学部

歴史文化学プログラム

取得できる学位 ★学士（文学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、歴史学を核として、様々な地域の文化的特性を歴史的に学ぶ教育プログラムである。学習にあたっては、特定の領域を選んで深く学ぶとともに、国際的な視野、とりわけ環東アジア史、広くは世界史の中での日本について考える能力を育むことが重視される。新潟大学の歴史文化学プログラムの特色として、日本史・アジア史・西洋史の授業科目を豊富に提供するばかりでなく、各地域・時代に閉じこもることなく、相互の交流・比較という視点から学習を進めることができる点がある。また、歴史学ばかりでなく、考古学・地理学・民俗学・文学・思想など関連する分野についても学び、総合的な地域理解を目指すことができる。さらに、新潟という地域に即して、日本や東アジア、西洋の諸地域について考えることができるよう学習支援体制を整えている点も重要な特徴である。このような教育プログラムにより、様々な地域の歴史的文化的背景を理解し、過去を学びつつ現代社会と未来を洞察する能力を持った人材へと成長することができる。こうした能力は社会人として生活していく上で身に付けておくべき知・教養であり、専門的研究者を目指して大学院へ進学する場合や、中学校社会科教員・高等学校地理歴史科教員、博物館学芸員などの資格を得て専門性を活かした職業につく場合はもちろん、広く官公庁や一般企業で働く際にも不可欠な素養である。

■ 人材育成目標

歴史文化学主専攻プログラムでは、人間、社会、文化の多様性を学修できる環境を整えるとともに、次の7点に集約される基本的能力、態度、姿勢を有する人材の養成を目標に掲げています。

- ・ 人間、社会、文化に関わる諸問題を多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- ・ 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- ・ 身近な課題の探究を通して、地域社会の発展に貢献できる。
- ・ 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献できる。
- ・ 歴史学の方法に基づいて、様々な地域の文化的特性を歴史的に把握することができる。
- ・ 自身が関心を有する地域・対象に関する歴史資料の性質を理解し、それに基づいてその地域・対象の歴史的特質を説明することができる。
- ・ 現代における様々な事象についてその歴史的・文化的背景を理解し、過去を学びつつ現代社会と未来へ思慮を及ぼすことができる。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 人文学に関わる教養を身につける。
- b) 人文学分野を越えた教養を幅広く身につける。
- c) 歴史学の理論と方法論を修得する。
- d) 歴史学の史料についての知識を修得する。
- e) 特定の時代と地域の歴史について具体的な知識を修得する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 史料を読み解くことができる。
- b) 歴史学の理論・方法を活用できる。
- c) 歴史学の専門文献を活用できる。
- d) 出来事の歴史的構造を説明できる。
- e) 他分野の知見を歴史研究に活用できる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 外国語によるコミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることができる。
- b) 現状の問題点を発見し、解決・解明に向けて探求していくことができる。
- c) 様々な情報を活用することができる。
- d) 的確な根拠にもとづき論理的に思考することができる。
- e) 共通の目的を達成するために、様々な人々と協同することができる。
- f) 自らの考えを様々な手段で的確に表現・発信できる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- b) 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- c) 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- d) 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

■■ プログラムの履修要件

- ・しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲を持つこと。
- ・豊かな感性と強い関心を持って、学習に取り組むこと。
- ・歴史と歴史の中で生み出されてきた文化について広い関心を持っていること。

■■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・人文学部では、授業科目開設にあたり、教養教育と専門教育の連携の上に構築された学士課程教育の中で、確かな専門知識と幅広い教養を涵養し、人文的実践知を育むことを目指す。